

低炭素杯2012開催までの経緯

| | | |
|-------|----------|--|
| 2011年 | 8月31日 | 第1回実行委員会 |
| | 9月13日 | 第1回企画・審査委員会 |
| | 10月7日 | ウェブサイト開設、環境省報道発表、エントリー団体募集開始 エントリー団体募集リーフレットの各所への送付 |
| | 11月10日 | エントリー団体募集メーチェ |
| | 12月9日 | 第2回企画・審査委員会 |
| | 12月15日 | 第2回実行委員会 |
| 2012年 | 1月10日 | 来場者募集リーフレットの各所への送付 |
| | 2月18・19日 | 低炭素杯2012の開催（第3回企画・審査委員会） |
| | 3月29日 | 第3回実行委員会 |

低炭素杯2012 スケジュール

| 区分 | 2011年 | | | | | 2012年 | | |
|-------|-----------|-----|-----------------------------|----------|------------------|---------------------------------|------------|---------------|
| | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 事務局 | エントリー団体対応 | | 募集開始 | 募集メーチェ | 地域センターへ照会(※) | とりまとめ | 通知 | ファイナリストとの連絡調整 |
| | 来場者募集 | | 開催告知(日程・場所) 関係者へDM送付 | リーフレット作成 | リーフレット配布 | 来場者募集 セミナー等詳細含む ウェブでの参加受付 | | |
| | 運営 | | 低炭素杯2012の運営準備、全国・地域メディアへの広報 | | 関係者・団体・会場との調整 | 当日プログラム作成 当日運営資料作成 | | 報告書作成 |
| 実行委員会 | 企画・審査委員会 | 第1回 | 第1回 | | 第2回 ファイナリスト選考 | | 第3回 | 第3回 |
| | 事務局 | | | | | | 低炭素杯2012当日 | |

※照会方法としては、エントリーのあった団体が活動する地域の地域センターに意見を求め、事務局に提出してもらいました。

低炭素杯2012プログラムの概要

次世代に向けた低炭素社会の構築のため、学校、家庭、NPO、企業などの多様な主体が、全国各地で展開している地球温暖化防止に関する地域活動を報告し、学び合い、連携の輪を広げる“場”を提供することを目的に「低炭素杯2012」を開催。ファイナリスト、一般参加者等、約1,500名が参集して、2012年2月18日、19日に東京ビッグサイト国際会議場で開催しました。プログラムの概要は以下の通りです。

①プログラムの構成

| 時間 | 2月18日(土) | 2月19日(日) |
|-------|-------------------------|------------|
| 10:00 | | |
| 11:00 | | |
| 12:00 | | |
| 13:00 | 開会式 | 特別シンポジウム |
| 14:00 | ファイナリストによる プレゼンテーション | 審査結果発表・表彰式 |
| 15:00 | | 閉会式 |
| 16:00 | | |
| 17:00 | | |
| 18:00 | 団体間交流会 | |
| 19:00 | | |

②プログラムのあらし

■ 2012年2月18日(土)

13:00 ~ 18:00

開会式及びファイナリストによるプレゼンテーション

低炭素杯2012実行委員会において、厳正な審査(エントリー書類の選考)を経て、エントリーのあった全国108団体の内、次の41団体が出場しました。各プレゼンテーションを①低炭素杯社会づくりへの貢献度、②活動の必要性、③活動の効果・先駆性を共通の審査項目とし、これに各部門別の審査項目を加え、9名の企画・審査委員会による審査が行われました。

ファイナリスト(41団体)一覧

| 部門 | 当日の発表順 | 団体名称 | 取り組み名称 | 所在地 | 掲載ページ |
|-----------------|--------|----------------------|--|-----|-------|
| 地域活動部門 計15団体 | 1 | いわてバイオディーゼルネットワーク | 東日本大震災におけるBDF燃料による被災地緊急支援 | 岩手県 | 21 |
| | 13 | NPO法人日本の森バイオマスネットワーク | 木質バイオマス燃料の普及を軸にした復興支援活動 | 宮城県 | 22 |
| | 11 | 宗教法人長泉寺 | 宗教活動から低炭素社会の構築を目指す | 宮城県 | 28 |
| | 2 | NPO法人あきた菜の花ネットワーク | 菜の花で秋田を元気にしよう!(菜の花から始まる循環型社会) | 秋田県 | 17 |
| | 34 | 特定非営利活動法人アサザ基金 | 牛久市周辺におけるBDF製造を具体化の第1歩とする循環型社会(低炭素社会)構築への実物大の社会モデル提示プロジェクト | 茨城県 | 34 |

| 部門 | 当日の発表順 | 団体名称 | 取り組み名称 | 所在地 | 掲載ページ |
|-----------------|--------|-------------------------|---|------|-------|
| 地域活動部門 計15団体 | 20 | 那須温泉地球温暖化対策地域協議会 | 温泉余熱排湯熱及びバイオマス燃料の利用による石油代替エネルギー | 栃木県 | 25 |
| | 32 | 那須野ヶ原土地改良区連合 | ストップ、ザCO ₂ 1000年のプロジェクトみんなの会 | 栃木県 | 38 |
| | 41 | NPO法人そらべあ基金 | 太陽光で園児及び地域社会と循環型社会構築—そして被災地支援へ | 東京都 | 23 |
| | 39 | 社団法人東京都トラック協会 | グリーン・エコプロジェクト推進活動事業 | 東京都 | 35 |
| | 30 | かわさき市民共同おひさまプロジェクト | かわさき市民共同おひさまプロジェクト | 神奈川県 | 39 |
| | 9 | 新潟県環境保全ネットワーク | グリーンカーテンプロジェクト2011 in にいがた | 新潟県 | 40 |
| | 6 | Shizuoka環境キャラバン隊 | 環境戦士イーグルマンと歌って踊ろうミニステージ | 静岡県 | 41 |
| | 19 | 西山森林整備推進協議会 | 森を守り森を育てる～現代版里山維持システムの構築に向けて～ | 京都府 | 42 |
| | 17 | 社会福祉法人喜園立山東保育園 | 「エコはえ〜こ(良い子)を育て、地域を育てる」 | 熊本県 | 32 |
| | 21 | バスマップ沖縄 | バスを使ってエコに貢献 バスマップの配布によるバス利用の促進 | 沖縄県 | 43 |
| 学生活動部門 計10団体 | 31 | 山形県立米沢工業高等学校 | 米エゼロエミッションプロジェクト | 山形県 | 44 |
| | 18 | 栃木農業高等学校 地域おこしプロジェクト班 | 守れヨシの湿原、とりもどせ農村のヨシ作り | 栃木県 | 16 |
| | 23 | 越谷市立大袋東小学校 | 自然・人・物との関わりを生かした環境教育と実践活動 | 埼玉県 | 31 |
| | 15 | (千葉工業大学) CITものづくりプロジェクト | 学内未利用資源の発掘プロジェクト | 千葉県 | 45 |
| | 14 | 工学院大学附属中学・高等学校自動車部 | ガソリン1Lで日本1周できる自動車の製作 | 東京都 | 46 |
| | 28 | 一橋大学環境サークル環兵衛 | 大学構内へのエコなシステムの導入、運営及び送り出し | 東京都 | 47 |
| | 24 | 神奈川県立相原高等学校畜産部 | 新たな環境保全・循環型農業の模索 ～地域に根ざしたリサイクルループの構築を目指して～ | 神奈川県 | 18 |
| | 3 | 三重大学環境ISO学生委員会 | 三重大学環境ISO学生委員会による環境活動 | 三重県 | 48 |
| | 37 | 阿南工業高等専門学校 | 小水力発電でものづくり力強化と地域連携を図る研究会活動 | 徳島県 | 49 |
| | 33 | 香川大学直島地域活性化プロジェクト | 環境にぐうな取り組み、続けています～学生によるエコカフェ経営 | 香川県 | 27 |
| 企業活動部門 計11団体 | 8 | 北海道コカ・コーラボトリング株式会社 | 「バイオディーゼル燃料利用促進」による低炭素社会モデルの創出 | 北海道 | 50 |
| | 29 | 株式会社建築工房 零 | 社は「地球と暮らそう」をテーマとした健やかで持続可能な未来 | 宮城県 | 51 |
| | 16 | ENEX株式会社 | 地下水熱を利用した低炭素型ヒートポンプエアコン | 秋田県 | 24 |
| | 25 | アイフルホームカンパニー | 日本全国・地域まるごとCO ₂ ゼロエミッションプロジェクト | 東京都 | 19 |
| | 38 | マテックス株式会社 | 既存住宅の窓の断熱リフォームによる「CO ₂ の削減」 | 東京都 | 26 |
| | 36 | 株式会社セタ | 苔、及び苔シートによる緑化から繋がる地域活性化事業 | 新潟県 | 37 |
| | 26 | 株式会社エスパルス | エスパルス エコチャレンジ | 静岡県 | 52 |
| | 12 | 株式会社大林組 名古屋支店 | 低炭素社会に貢献する「環境配慮型社員寮」づくり | 愛知県 | 30 |
| | 27 | さくらや・いずはら集配専門クリーニング | 「やあね、こけちゃっカー」によるCO ₂ 排出軽減及び車体緑化 | 大阪府 | 53 |
| | 5 | ピレッジ美合館 | エコ温泉のチャレンジ ～まんのう町をエコの町へ～ | 香川県 | 54 |
| | 10 | 中越バルブ工業株式会社 川内工場 | 竹から生まれた紙物語～地域資源で築く環境未来～ | 鹿児島県 | 33 |
| ビジネス部門 計5団体 | 7 | 有限会社仲田種苗園 | シードバンクを活用した地球温暖化防止と生物多様性の復元 | 福島県 | 20 |
| | 40 | 有限会社ナベ企画 | 小径間伐材の有効利用 | 栃木県 | 55 |
| | 22 | 株式会社大地を守る会 | ゆかいな野菜物語 | 千葉県 | 56 |
| | 4 | 株式会社ピコエイダ | ECOIS 先進的省エネネットワーク、解析、サポートシステム | 東京都 | 29 |
| | 35 | おひさま進歩エネルギー株式会社 | 市民出資によるエネルギーの地産地消 | 長野県 | 36 |

■ 2012年2月18日(土)

18:30～20:00 団体間交流会

ファイナリスト及び共催企業・団体等の意見交換・交流を図るため、会場近くの香港飲茶楼ル・パルクで団体間交流会を開催。約200名が参加しました。

■ 2012年2月19日(日)

10:00～12:00

企画・審査委員会による表彰団体の選考

2月18日に行われた41団体によるプレゼンテーションを各委員が審査した結果をもとに、企画・審査委員会が開催され、各賞受賞団体が決定されました。当初予定していた賞に加え、審査員特別賞として最優秀プレゼンテーション賞、最優秀地域連携賞、最優秀イノベーション賞、ユニークプレゼンテーション賞が追加表彰されました。



13:00～15:00

特別シンポジウム「ひと・まち・暮らし・低炭素地域づくり」

○趣旨

東日本大震災の発生により、東北地方を中心に未曾有の被害が生じるとともに原子力発電所の大規模な事故・停止により、我が国のエネルギー政策のあり方について抜本的な見直しが必要と迫られています。そのため我が国の将来に向け、まちづくり、ライフスタイル、エネルギーの需給のあり方を構想していくにあたって、低炭素社会の構築に向けて地域の様々な主体が連携をしていく事が必要不可欠です。このシンポジウムでは、低炭素社会の構築に向けた地域連携のあり方について各界からパネリストを迎えて、討論し、提言を行いました。



○基調講演

『英国における地域の取り組み－Big Green Challenge について』

講演者: Kirsten Bound氏 英国 NESTA[National Endowment for Science, Technology and the Arts] 政策アドバイザー

○パネルディスカッション

コーディネーター: 川北 秀人氏 IHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表

パネリスト: Kirsten Bound氏 英国 NESTA 政策アドバイザー

宮原 美智子氏 NPO 法人くまもと温暖化対策センター理事長

三浦 一博氏 株式会社オプトロム代表取締役社長

布施 孝尚氏 宮城県登米市長

山田 興一氏 JST(独立行政法人科学技術振興機構) 低炭素社会戦略センター副センター長

15:15～16:00

審査結果発表・表彰式及び閉会式

環境大臣賞としてグランプリ(1団体)、金賞(各部門から1団体、計4団体)が授与されました。特別賞として、東日本大震災被災地域貢献活動賞、節電対策貢献活動賞、協賛・協力企業賞として最優秀グローバル賞、最優秀家庭エコ活動賞、最優秀地域活性化賞、最優秀コミュニケーション賞、最優秀地域エコ活動賞の授与と、企画・審査委員会において新たに加わった審査員特別賞の授与がありました。なお表彰式で授与される低炭素杯2012トロフィーについて、制作者による今年制作過程、趣旨の紹介もありました。

